

## 第 8 回 IEEJ/APERC 国際エネルギーシンポジウム 開催のご案内

### カーボンニュートラルとエネルギー安全保障の両立 -現実的かつ実行可能な道筋を求めて-

国際エネルギー機関のビロル事務局長が以前より述べている通り、世界は今、“初めての世界的なエネルギー危機”の中にあります。1970 年代の 2 回の石油危機と違い、石油だけでなく、天然ガス、石炭など多岐に渡る形でエネルギー危機に直面しております。加えて、一部の先進国への影響が限られていた過去の石油危機と比較して、今回は、先進国だけではなく、新興国・途上国を含む世界全体に影響が及んでおります。今回の危機により、エネルギー安全保障の重要性が改めて浮き彫りになっております。

一方、150 を超える国が期限目標を伴うカーボンニュートラルを既に宣言するなど、世界全体が今世紀半ばのカーボンニュートラル実現に向けて動いております。昨年 11 月に行われた先の COP27 でもパリ協定 1.5℃ 努力目標への決意が今一度確認されております。こうした脱炭素に向けた世界的な取り組みが加速するなか、政策、技術開発、ファイナンスなどで不透明さが増しており、低炭素であるもやはり化石燃料である天然ガスへのユーザーの長期コミットが難しいことから、十分な上流投資が必ずしも進んでおりません。

結果して、この 1 年、ヨーロッパ主要国が自国のエネルギー安全保障のために脱ロシアを名目にロシア産パイプラインガスの依存からシフトするなか、天然ガス市場は価格の乱高下に見舞われております。こうした不安定な市場動向をうけて少なくない数の発展途上国がカーボンインテンシティは高いものの相対的に価格の安い石炭に回帰する動きをみせるなど、2022 年の世界の石炭消費量は過去最高を記録しております。期せずして、カーボンニュートラルとエネルギー安全保障の両立という難題が白日の下にさらされております。

一般財団法人アジア太平洋エネルギー研究センター (APER) と合同開催となる今回の国際シンポジウムにおいては、化石燃料の継続利用、クリティカルマテリアルの安定供給、アジア新興国の持続的な経済成長の調和というエネルギーtransition下での隘路を念頭に、次の課題に関して多様な国籍・バックグラウンドを持つ専門家との議論を通じて、カーボンニュートラルとエネルギー安全保障の両立に向けた現実的かつ実効可能な道筋に係る視座を国内外に発信してまいります。

- 化石燃料利用と円滑なエネルギーtransitionの方策
- 脱炭素技術に必要なクリティカルマテリアルの供給強化
- アジアにおけるエネルギーtransition

#### 記

1. 日時：2023 年 4 月 27 日（木）10:00-16:35（日本標準時（JST））
2. 開催方法：ハイブリッド形式：  
実会場（グランドプリンスホテル高輪 プリンスルーム 住所：東京都港区高輪 3-13-1）  
及び オンライン（ZOOM）
3. テーマ：「カーボンニュートラルとエネルギー安全保障の両立 -現実的かつ実行可能な道筋を求めて」
4. 使用言語：日本語 / 英語（同時通訳付き）
5. 参加対象：賛助会員

プログラム（日本標準時）

10:00-10:05	開会挨拶	(一財) 日本エネルギー経済研究所 理事長 寺澤 達也
10:05-11:35	講演 10:05-10:50  パネル ディスカッション (Q&A 含) 10:50-11:35	<p><b>セッション 1 化石燃料利用と円滑なエネルギーtransitionに向けた方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 当面はエネルギー安全保障のために化石燃料利用が必須であるなか、エネルギーtransitionにおける化石燃料の上流投資をどう位置付けるべきか。</li> <li>➤ 化石燃料利用による炭素排出量減少への取り組みや関連投資を推進するために何が必要か？</li> </ul> <p>司会 小山 堅 (日本エネルギー経済研究所 専務理事 首席研究員)</p> <p>講演・パネリスト            ファハド・アルアジュラン 氏 (沙 アブドラ国王石油調査研究センター 所長)            ケン・メドロック 氏 (米 ライス大学ベーカー研究所 シニアダイレクター) *Online            ジョナサン・スターン 氏 (英 オックスフォード・エネルギー研究所 ガスプログラム ディスティングイッシュドリサーチフェロー)</p>
11:35-13:00	ランチブレイク	
13:00 -14:30	講演 13:00-13:45  パネル ディスカッション (Q&A 含) 13:45-14:30	<p><b>セッション 2 脱炭素技術に必要なクリティカルマテリアルの供給強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ どのようにしてクリティカルマテリアルの供給を増やしていくのか。</li> <li>➤ 技術ベストミックスの観点から、供給の多様化、クリティカルマテリアルの使用効率の向上、リサイクルの強化のために、どのような支援や事業努力が必要か。</li> </ul> <p>司会 グレン・スウィートナム 氏 (アジア太平洋エネルギー研究センター 副所長)</p> <p>講演・パネリスト            ミッシェル・フォス 氏 (米 ライス大学ベーカー研究所 エネルギー・ミネラル・マテリアル部門フェロー)            原田 武 氏 ((独)エネルギー・金属鉱物資源機構 金属資源開発本部 金属企画部 調査課長)            牟田 徹 氏 (国際エネルギー機関 エネルギー供給・投資見通し分析部門 上級エネルギー分析官)</p>
14:30-15:00	休憩	
15:00-16:30	講演 15:00 -15:45  パネル ディスカッション (Q&A 含) 15:45-16:30	<p><b>セッション 3 アジアにおけるエネルギーtransition</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 今後経済成長が見込まれるアジア新興国において、カーボンニュートラルとともにエネルギー安全保障をどのように実現するべきか。</li> <li>➤ アジアの経済成長を下支えしながら、カーボンニュートラルとエネルギー安全保障の両立に向けたアジア地域の協力フレームワークはどうあるべきか。</li> </ul> <p>司会 山下 ゆかり (日本エネルギー経済研究所 常務理事)</p> <p>講演・パネリスト            ヌキ・ウタマ 氏 (ASEAN Centre for Energy 事務局長)            ジョー・エヴァンス 氏 (豪州気候変動・エネルギー・環境・水資源省 副長官) *Online            小林 出 氏 (経済産業省 資源エネルギー庁 国際資源エネルギー戦略統括調整官)</p>
16:30-16:35	閉会挨拶	(一財) アジア太平洋エネルギー研究センター 代表理事・所長 入江 一友

※ プログラムは変更となる可能性がございます。変更があった場合はホームページ上でご案内を差し上げます。